

玉川大学

# 教師教育フォーラム

ICT を活用した学び —効果的な ICT 活用に向けて—

オンライン  
配信

2020年 **12月13日** 日  
9:30~15:30

メインテーマに「ICT を活用した学び—効果的な ICT 活用に向けて—」を掲げ、教師教育リサーチセンターと教職大学院とが共催して開催します。午前の部では、児童生徒「1人1台端末」の教育環境の充実による個別最適な学びと協働的な学びを実現すること、ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、さらに教員養成大学にはICT活用指導力の養成が求められていることについて、講演・シンポジウムにより様々な立場からお話いただき養成・採用・研修の一体的改革を踏まえICT活用について、本フォーラムを通して皆様と考える機会にしたいと思います。午後からは、より具体的なテーマを定め分科会を行います。

主催

教師教育リサーチセンター

共催

教職大学院

後援

町田市教育委員会、稲城市教育委員会、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、時事通信出版局、協同出版、日本語検定委員会、(株)ネットラーニング、玉川学園K-12

プログラム

9:30~12:00 教師教育フォーラム

学長挨拶 小原 芳明

講演

- 生涯にわたって能動的に学び続けるための1人1台端末の活用とは  
高橋 純氏 (東京学芸大学 准教授)

シンポジウム

- 玉川学園小学部(1-5)のICT教育について  
溝口 広久氏 (玉川学園低学年 教諭)
- Society 5.0時代に対応するための新たな学びを“学ぶ”実践と課題  
佐藤 修氏 (玉川大学教職大学院 教授)
- 『Machida Next Education』の取組  
林 啓氏 (町田市学校教育センター 所長)

【コーディネーター】

森山 賢一 (玉川大学教師教育リサーチセンターリサーチフェロー 教授)

13:00~15:30 教職大学院 分科会

①ICT教育 ②英語教育 ③特別支援教育 ④国語教育 ⑤算数教育

詳細は裏面をご覧ください。

問い合わせ先

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL: 042-739-7097 FAX: 042-739-8857

e-mail: t-kenshu@tamagawa.ac.jp HP: www.tamagawa.jp



# 分科会テーマ

## ① ICT教育

### 児童生徒1人1台端末時代のICTを活用した効果的な学びの実践

学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「情報活用能力」が位置づけられた。GIGAスクール構想も新型コロナウイルス感染症対策として前倒され、2020年度中にほとんどの自治体でICT環境が整備される。本分科会では、教育委員会と学校現場の実践例等を紹介して、今後の学習に活かす機会としたい。

ゲストスピーカー・担当教員

船津 慎一氏（神奈川県愛甲郡清川村立緑小学校 校長）  
井川 明氏（神奈川県清川村教育委員会事務局 学校教育課 参事兼指導主事）  
佐藤 修（玉川大学教職大学院 教授）

## ② 英語教育

### 小学校英語教育における言語活動と評価について—小中連携を視野に入れて—

小学校の外国語科の目標には、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す」とあり、中学校外国語科の目標とも共通している。そこで、新学習指導要領の実施に伴う言語活動の指導方法及び評価方法について理解を深め、さらに具体例や実施例を挙げながらワークショップ形式で、授業力を高める工夫を提案する。

スピーカー・担当教員

佐藤 久美子（玉川大学教職大学院 名誉教授・特任教授）

## ③ 特別支援教育

### 特別支援教育とICT

GIGAスクール構想の進展により、環境が整いつつある中で、通常学級に在籍するLD児やADHD児等の論議が置き去りにされている観は否定できない状況である。本分科会では、ひとり一人の「学びの方法」の最適化という視点から、考えていきたい。

#### 1 「魔法のプロジェクト」や「特別支援学校等の現場」での、授業から教員研修等の多様な実践事例を紹介する。

##### ●魔法のプロジェクトと特別支援学校(知的・肢体)、通常学級(LD等)の実践事例

児山 卓史氏（神奈川県立平塚養護学校 教諭）

##### ●放課後等ディサービスや学習塾等での実践事例

川田 健太郎氏（合同会社 HI-FIVE 代表）

##### ●特別支援学校(病弱)での実践事例

小原 基氏（横浜市立若葉台特別支援学校 教諭）

##### ●その他の多様な取り組み例

安藤 正紀（玉川大学教職大学院 教授）

中澤 由紀氏（神奈川県立津久井養護学校 教諭）

#### 2 研究

##### 小学校算数科学習者用デジタル教科書に関する一考察—小学校2年生の学習に困難を抱える児童に対する個別指導を通して—

須賀 拓己氏（埼玉県久喜市立桜田小学校 教諭）

#### 3 「学びの方法」の最適化について考えるパネルディスカッション

パネラー 児山 卓史氏、川田 健太郎氏、小原 基氏、須賀 拓己氏

コーディネーター 安藤 正紀

## ④ 国語教育

### 読みの交流における問い作りの学習

国語科における「読みの交流」の学習活動において、学習者自らに問い作りを行わせ、問いの作り方そのものについて交流を行う学習が開発されている。そうした学習デザインに関わる研究を行っている2人の教職大学院OBからその実践と理論の紹介をいただき、今後の方向性について検討する。

スピーカー・担当教員

鈴木 真樹氏（相模原市立富士見小学校 教諭）  
西田 太郎氏（東京福祉大学短期大学部 専任講師）  
松本 修（玉川大学教職大学院 教授）

## ⑤ 算数教育

### 若手教師の日常の実践から学ぶ—挑戦・失敗・継続—

前半は教職2年目の若手教師3人の日常の実践・考察・これを生かしたその後の取り組みと児童の変容から、指導・支援の在り方を考える。後半はこの取り組みを受け、具体的な「指導と評価と支援」の流れを吟味し、児童の思考「はてな？なるほど！だったら！？」を生かした深い学びにつなげる授業提案をする。

ゲストスピーカー・担当教員

上野 浩代氏、山本 純平氏、酒井 翔太氏（江東区立第一亀戸小学校 教諭）  
菅野 宏隆（玉川大学教職大学院 教授）

# 講演者プロフィール

## 高橋 純

東京学芸大学教育学部・准教授、独立行政法人教職員支援機構客員フェロー、博士(工学)。教育学、教育方法学、教育の情報化に関する研究に従事。中央教育審議会臨時委員、文部科学省「教育の情報化に関する手引」作成検討会委員等を歴任。日本教育工学会理事、日本教育工学協会副会長など。

## 溝口 広久

玉川学園小学部(1-5)学務主任。1999年4月より玉川学園CHaT Netセンター勤務。玉川学園教育ネットワークCHaT Netの運営にあたる。同センター遠隔教育推進室にて海外校(台湾)向け日本語及び英語遠隔授業の企画・運営担当。玉川学園マルチメディアリソースセンターの設立準備に関わり、同センター学習支援室勤務を経て現在に至る。

## 佐藤 修

玉川大学教職大学院教授。相模原市立小山中学校長を経て現在に至る。国立教育政策研究所、評価規準、評価方法の工夫改善に関する調査研究協力者、学習指導要領実施状況調査結果分析委員会委員、文部科学省学習指導要領解説技術・家庭科作成協力者、教育の情報化に関する手引作成委員、情報モラル教育教材作成委員等を歴任。

## 林 啓

町田市教育委員会学校教育部教育センター所長。市長部局情報システム課で7年間、システム構築やネットワーク運用、セキュリティポリシーの策定などに携わる。2017年より現職。現在は特別支援教育に加え、教育の情報化にむけた計画の策定、インフラ整備等に従事している。

## 森山 賢一

玉川大学教育学部・教育学研究科教授、教師教育リサーチセンターリサーチフェロー。専門は教育内容・方法学、教師教育学。特に教育の理論と実践との統合を目指すことによって、教育実践に関する研究水準の向上に取り組む。町田市教育委員、(独)教職員支援機構特任フェロー、中央教育審議会臨時委員など。